

一般社団法人 高知県作業療法士会ニュース

128号  
発行2016.8.24



発行所：一般社団法人  
高知県作業療法士会 広報部  
事務局：〒780-0870  
高知県高知市本町5丁目6-48  
本町深田ビル 5階 南号室  
<http://kochiot.com>

発行 平松 真奈美  
編集 森 祐輔

【目次】	
会長挨拶	1
副会長挨拶・理事挨拶	2
理事挨拶	3

## 総会を終えて

平成28年5月14日(土)に高知リハビリテーション学院にて、一般社団法人 高知県作業療法士会 第7回総会が開催され、活発な討議がされました。正会員総数656名のうち委任状数378名、出席正会員数114名でこの議決権の総数は492名となり正会員の3分の1以上の議決権数となり、総会成立となりました。議案は全て承認されました。また、役員改選が行われ、理事選挙となり、会長・副会長・理事にそれぞれ就任いたしました。委任状の提出をはじめ、会員の皆様には審議のご協力ありがとうございました。

## 会長挨拶

会長 平松 真奈美 (高知リハビリテーション学院)



この度の役員改選で、会長に就任しました平松です。1980年に高知県作業療法士会が発足し36年目を迎えました。多くの会員がまだ生まれていなかった頃から、この会の活動は始まっています。2010年に一般社団法人として新たなスタートを切り、2016年現在、新規入会予定者を含めると、700名を超える会員数になります。発足から数年間、ごく限られた地区にしかいなかった作業療法士が、高知県全域へと広がってきたことを、とても嬉しく思います。

さて、日本は世界に類を見ない少子高齢社会を迎えており、国は次々と新しい施策を打ち出しています。地域包括ケアシステムの構築に向けての事業、精神障害者の地域移行・定着支援、アウトリーチ(訪問)などの事業、認知症初期集中支援事業などに加え、発達障害のある子への就労に向けた進路指導のための学校カルテの導入も、2020年には始まります。高齢者や障害児・者が、地域で生活できるように計画されたこれらの施策は、作業療法士を積極的に活用する方向となっています。そのため、急増する作業療法士の質の向上が急務であり、職能団体としての取り組みが求められています。

一般社団法人日本作業療法士協会は、これら国の施策に対応できる人材育成に着手し、各都道府県士会と連携して実施することを進めています。昨年度は生活行為向上マネジメント(MTDLP)の普及が重点化され、今年度以降はさらに、地域ケア会議や介護予防、認知症初期集中支援などが次々と予定されています。高知県作業療法士会においても、会員の皆様が地域で活躍できるように、連携して事業を展開していきます。


また、昨年度より公益社団法人高知県理学療法士協会、高知県言語聴覚士会とともに、「高知県リハビリテーション職能三団体協議会」を設立し、高知県における地域包括ケア関連の人材育成を始めました。高知県ならびに県内の各市町村、そして関連他団体と協力し、高知県に住む高齢者や障害児・者が、「住み慣れた場所で生き生きと暮らす」ことができるように、職能団体としての役割を果たしていきます。

今年、一般社団法人日本作業療法士協会は、設立50周年です。キャッチコピーは、「これからも あなたと共に 作業療法」です。高知県作業療法士会においても、対象者に寄り添い、そして社会の要請に応える作業療法が提供できるよう、会員の皆様のご協力もいただき、新しい理事一同懸命に取り組めます。どうぞよろしく願いいたします。

**「やりゆうぞね作業療法2017」**  
開催のご案内

(一社)日本作業療法士協会は平成28年9月25日に設立50周年を迎えます。この記念事業の一つとして、各都道府県作業療法士会は、未来にむけて「これからも あなたと共に 作業療法」をキャッチコピーに、様々な事業を行うこととなりました。

(一社)高知県作業療法士会では、記念イベントとして「やりゆうぞね作業療法2017」を、イオンモール高知にて開催します。イベント開催時期や作業療法の作品の募集要項については、詳細が決まり次第、ご案内いたします。



一般社団法人 高知県作業療法士会  
会員数 686名 (平成28年7月末現在)



## 副会長挨拶



副会長  
浅川 英則 (久病院)

今年度より副会長をさせていただきます久病院の浅川です。これまで一般向けの啓発活動や学会の運営に携わってきましたが、これからは違った立場で対外的な働きをしていきたいと考えています。これから高知県作業療法士会は、多くの選択肢の中から進むべき方向を定めていかなければなりません。

例えば分野により、または行政や多職種との関わりの中で様々な取り組みが求められ、同時にそれに耐え得る組織である事も必要となります。内容が具体的であればあるほど専門性や熟練度も必要となるため、研修会や学習会、学会を通じた研鑽も重要であり、それらが作業療法士として力を発揮できるステージにつながれば、各々の想いや経験を形にしていける場が今後さらに増えてくるものと思います。

また今後の活動の中で、会員同士が繋がりをもち、互いに刺激し合える事が組織の発展にも繋がるものと思います。理想だけでなく、人を大切に作る組織であるよう精一杯努めていきたいと思っています。これからもよろしくお願いいたします。



副会長  
畑田 早苗 (土佐リハビリテーションカレッジ)

この度、副会長に就任いたしました畑田早苗です。事業計画でも示されているように国の施策は、より身近な地域で対象者をいかに支えるかといった視点に向けられており、地域包括ケアシステム、新オレンジプランの推進など作業療法士に求められるニーズはとて高いです。しかし、まだ我々にそこに応えられるだけの十分な準備はできていないのが現状です。自分の職場だけに留まらず、国の施策も含めてもっと外に目をむけ、会員同士のネットワークを築いていく必要があります。

県士会活動は、自分の枠を広げ、社会と融合しながら自分自身も成長させていける格好の場です。会員数も700人を超え作業療法士が働く現場も増えてきました。若い私たちが協力し知恵を絞れば、高知県に貢献できることや自分自身が成長できることがたくさんあります。会員にとって価値のある高知県作業療法士会として発展していけるように一緒に奮闘していきましょう。

## 理事挨拶



地域リハビリテーション委員長・学術部担当  
岡村 忠弘 (脳外傷友の会高知 青い空)

今回、一般社団法人高知県作業療法士会総会に際して開かれた選挙において、理事に選出されました。多くの会員の皆様によってご信任をいただいたということについては、心からのお礼を申し上げます。

今年度は、学術部の担当理事と地域リハビリテーション委員長を兼任させていただきます。学術部では昨年に引き続き、会員の皆様にとって実りある研修会を企画していきます。また、地域リハビリテーション委員会としては、高知県リハビリテーション職能三団体協議会で主催している研修会に加え、認知症施策への取り組みも開始されます。さらに、会員の皆様のご協力を賜ることになると思います。微力を尽くたく存じますので、何とぞ引き続きご指導、ご鞭撻の程、心からお願い申し上げます。



事業部・広報部担当  
武市 啓志 (梅ノ辻クリニック)

この度、理事となりました武市です。私は今まで事業部の活動で各地域でのイベント活動、公開講座等を開催することで作業療法の広報・啓発活動を経験してきました。それらの活動を通して作業療法の認知度や理解度はまだまだであると感じております。病院や施設、地域で行われている

作業療法を対象者やご家族、関連職種の方々に理解していただき、必要とされていく為には作業療法の資質や専門性の向上はもちろんですが、地域や行政など様々な場面や部門と繋がっていくことが必要であると考えております。作業療法を今まで以上にアピールできるよう広報・啓発活動を尽力していきます。よろしくお願いいたします。



高知県作業療法学会実行委員長・渉外部担当  
大熊 将平 (近森病院 総合心療センター デイケアパティオ)

皆さん、こんにちは。今年度より理事に就任をいたしました近森病院 総合心療センター デイケアパティオの大熊と申します。当士会は法人格を取得して6年が経過しており、行政や県民に対して作業療法の普及啓発を更に推進しなければならない時期にあると思います。そのためには担当部局である渉外部の事業内容を明確にし、高知県内において積極的な“作業療法の渉外活動”を開始できることを目指して尽力していく所存です。先日、研修会にて「Think outside the box」の視点が作業療法士に必要と学びました。県士会活動も同様に既成の枠に捉われないことなく、ユニークに取り組みたいと思います。



事務局・保険部・教育部担当  
土居 英雄 (訪問看護ステーション そら)

作業療法士が国家資格をもつ専門職として誕生し、50年が過ぎ、作業療法士の活躍の場は病院や施設だけでなく、身近な地域生活の場所にも広がってきました。平成27年度の介護保険改正以降、地域で作業療法士を求める声が高まっています。この声に応えるためにも会員への最新の情報発信と共有、人材育成のための研修や平成30年度の介護報酬・診療報酬の同時改定に向けた長期的な対応も視野に入れた士会運営が必要と考えます。一理事として微力ながら会員の皆様のお役に立てるよう努力させていただきます。

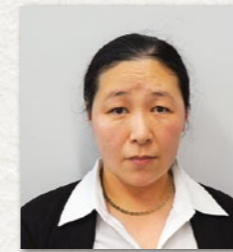


災害リハビリテーション委員長・保険部担当  
白木 幸子 (菜の花診療所)

菜の花診療所の白木幸子と申します。高知県作業療法士会は法人格を取得して7年目を迎えました。

今年度は、理事として保険部の担当、そして引き続き災害リハビリテーション委員長を担当致します。

2025年の地域包括ケアシステムの構築が急務である昨今、これまでの医療・保健・福祉のみならず様々な分野において、作業療法士が活躍(職域の確保)でき、また必要とされる職種として地域に認められるように、私たちが広い視野で先を見て、連携・分担しながら取り組むことが求められます。その為には皆様のご協力が欠かせません。将来の自分たちのためにも、一緒に頑張りましょう。これからもよろしくお願いいたします。



事務局財務担当  
橋田 亜弥 (同仁病院)

前期に引き続き、事務局の財務を担当することになりました同仁病院の橋田です。

会員の皆様からのスムーズな会費の徴収、並びに会費納入に関する窓口としての役割、各部局の運営のお手伝いができればと考えています。また、会員数の増加に伴い、とすれば、会員管理が煩雑になってしまうので、事務局スタッフとともに、入会手続きや異動手続き後、速やかな会員名簿の作成、管理を行えるよう協力していきたいと考えています。そのためにも、会員一人一人の協力も必要となってきます。異動の際など、速やかに届け出をお願いしたいと思います。

新会長のもと、新しい理事メンバーと共に士会運営に携わっていきますのでよろしくお願いいたします。



事務局長・教育部担当  
矢野 勇介 (近森リハビリテーション病院)

平成24年度から3期、理事として携わらせていただいています近森リハビリテーション病院の矢野勇介です。今まで、事務局と教育部運営に携わらせていただきました。会員並びに役員の皆様にご支援いただきながら業務を遂行することができました。

昨今、地域包括ケアシステムの構築に向けた市町村との活動が求められています。高齢者個々の課題解決とあわせ、地域でのニーズの掘りおしが重要である事が指摘されています。そういった中で、広い視野で社会の情勢や知識を取り込み、地域とバランスよく活動を進めていくと共に、作業療法の質的な底上げ、様々な課題に対応できるような活動していきたいと思っています。



事業部・渉外部担当  
中越 太一 (海辺の杜ホスピタル)

みなさん、今年度より理事を務めさせていただきます海辺の杜ホスピタルの中越太一と申します。

先の理事会で私は事業部と渉外部の担当理事となりました。正直、各部の目的やこれまでの歴史など分からない部分が多く、不安一杯ですが、漠然とした不安で固まるのではなく、以下の2点を進めていきたいと考えています。

【県士会員への情報発信】整備予定のHPを通じての情報発信等、まさに「見える化」

【作業療法士の地域参画】高知県の市町村を知り、足を運び住民や行政とのつながりを作り、地域包括ケアや障害福祉領域で必要とされるよう取り組み

みなさんからの情報、アイデアも待っております。2年間よろしくお願いいたします。



広報部・渉外部担当  
久武 昌樹 (土佐希望の家)

広報部と福利部を担当させていただく久武昌樹です。

広報部では、昨年度完成した広報誌「OT@KOCHIvol.2」を活用して、中高生への広報活動に力を入れたいと思っています。また、会員のみならず一般の方に向けて、HPに様々な記事を掲載していくよう準備を進めています。

福利部では、昨年度皆様にご協力いただいたアンケート内容をもとに、研修会を企画することとしています。また、会員数が700名を超える現状でも、会員同士の顔が見え、情報交換や連携ができやすくなるような様々な企画を検討したいと思います。よろしくお願いいたします。



学術部・福利部担当  
山本 学 (近森病院)

今回、初めて理事を務めさせていただきます近森病院の山本学と申します。担当は学術部と福利部になります。

学術部では学習会の開催だけではなく、今後は学術誌の発行なども検討し、より専門性を追求した企画・運営を行っていきます。福利部では、福利厚生に関することや士会員同士の横のつながりを作り、一人一人の顔が分かる県士会を目指します。

今は約700名となった会員が、少しでも相互交流でき、全員で同じ方向を向いて前に進んでいけるよう、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。

まだまだ若輩なため、ご指導・ご鞭撻もいただきながら成長してまいりますのでよろしくお願いいたします。

順不同

